

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者 佐藤雅美・鹿児島大学大学院呼吸器外科学分野・教授）

研究要旨

（院内）NCDと（院内）がん登録のコラボによる（院内）業務効率化に向けた院内でのシミュレーション、さらに、NCD不参加の診療領域科を最小化するためのインセンティブに関してのシミュレーションを行った。

A. 研究目的

- ①全国がん登録には院内がん登録および地域がん登録の情報が集約される。その情報の精度を最も効率よく向上させるには、診療科レベルの情報を効率よく反映させることである。一方、このために診療科の業務が拡大することは、一般臨床への影響も大きい。これら現状を鑑みた場合、すでに各診療科で施行しているNCDへの登録内容を院内がん登録に移行する、あるいは、診療科が院内がん登録入力を代行する方法が考えられる。そこで、今年度はその実施に向けたシミュレーションを行いその問題点を明らかにする。
- ②その一方で、がん登録事業に限らず、NCDデータによる解析が可能となっても、NCDそのものカバーする診療科領域が限定されている現状では、その利活用には限界が生じる。これを打破するための方策としてインセンティブを想定したシミュレーションを行い、その可能性について検討する。

B. 研究方法

各診療科で施行しているNCDへの登録内容を院内がん登録に移行する方法とその問題点、さらには、診療科が院内がん登録入力を代行する方法とその問題点、インセンティブなどについてシミュレーションを行い検討する。

（倫理面への配慮）

いずれの研究もシミュレーションによるものであり、実局面ではないため、倫理的問題は生じない。

C. 研究結果

- ①-1：診療科NCDデータの院内がん登録への移行に関する検討：

各診療科が所有するNCDデータを院内業務への協力として、院内がん登録に提供することは、法的には問題ないと考えられた。同時に、このことは、院内がん登録事業の精度向上と業務の省力化につながる。

一方で、NCDデータを提供する診療科サイドでは、業務量の増加となるのみで、診療科サイドで、この方法を積極的に進めることにはつながらない。

しかしながら、院内がん登録従事者がこれまで、診療科が施行してきたNCDデータの入力を行うのであれば、診療科サイドの協力が得られる可能性が極めて高いと考えられた。

- ①-2：診療科が院内がん登録入力を代行することの検討：

実務的には、NCDが把握する症例において、院内がん登録事業の実務の一部を診療科が行うことは不可能ではない。この場合、主治医が行う、あるいは医局秘書が行うなどがありうる。法的に問題ないかの検討が今後、必要である。インセンティブに関しては、人件費の一部を病院あるいは院内がん登録サイドが負担すれば問題はない。

いずれにおいても、NCDデータ入力と院内がん登録業務に重複する部分が多々あり、大局的視点に立った病院業務の効率化に向けた病院長、あるいは学会、政府からのリーダーシップが必要と考えられた

<p>②NCD参加診療科拡大に向けたインセンティブに関する検討： NCDに参加した診療科においては専門医制度など、診療科サイドのインセンティブの存在が大きい。一方、未だにNCDに未参加の診療科では、NCDに参加することのインセンティブを見いだせないことが不参加の主たる原因と考えられる。 現在、NCD登録術式と診療報酬請求術式の統一化に向けた検討が行われている。この統一化されたNCDベースの診療報酬には一定のプラス係数を設定することでNCDに参加している診療科領域のインセンティブを増やすことができる。一方、NCD未参加の診療科ではこれが不可能であり、他領域における増額分に相当する減額指数を設定すれば、国民医療費の増額なしに、NCD参加領域の拡大が可能となるとシミュレーションされた。</p> <p>D. 考察および結論 インセンティブの設定によっては、院内NCD情報の院内がん登録への移行はスムーズに開始可能である。 さらに、NCDベース診療報酬請求係数を設定することでNCD参加診療科を増やすことは可能であると推測された。</p> <p>F. 健康危険情報 該当するものはない。 (分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)</p> <p>G. 研究発表 1. 論文発表 1) Development of an annually updated Japanese national clinical data base for chest surgery in 2014 Endo S, Ikeda N, Kondo T, Nakajima J, Kondo H, Yokoi K, Chiba M, Sato M, Toyooka S, Yoshida K, Okada Y, Sato Y, Okumura M, Masuda M, Chihara K, Miyata H. Gen Thorac Cardiovasc Surg 2016;64:569-576 10.1007/s11748-016-0697-1</p>	<p>2) 委員会報告：肺がん検診における喀痰細胞診の診断一致性と標準化. 佐藤 雅美, 柴 光年, 齋藤 泰紀, 佐藤 之俊, 渋谷 潔, 土田 敬明, 中山 富雄, 宝来 威, 池田 徳彦, 河原 栄, 三浦 弘之, 中嶋 隆太郎, 田口 明美, 矢羽田 一信, 島垣 二佳子, 神尾 淳子, 長尾 緑, 三宅 真司, 下川 幸弘, 田中 良太, 遠藤 千頭. 肺癌 2015. 10;55(6):859-865</p> <p>3) Potentially overlooked branches of the pulmonary artery Nagata Y, Nakamura Y, Kariatsumari K, Otsuka T, Aoki M, Sato M. Asian Cardiovasc Thorac Ann 2016 /09/24;24(7):676-680 10.1177/0218492316660452</p> <p>4) MicroRNA Analysis in a Mouse Heterotopic Tracheal Model, Watanabe Y, Ogura K, Okada Y, Watanabe T, Oishi H, Matsuda Y, Notsuda H, Harada A, Aoki M, Nagata T, Kariatsumari K, Nakamura Y, Sato M, Kondo T, . The Journal of Heart and Lung Transplantation, 35(4 S), April 2016 DOI: 10.1016/j.healun.2016.01.493</p> <p>H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。) 1. 特許取得 該当するものはない。 2. 実用新案登録 該当するものはない。 3. その他 該当するものはない。</p>
--	--